大麦管理特報

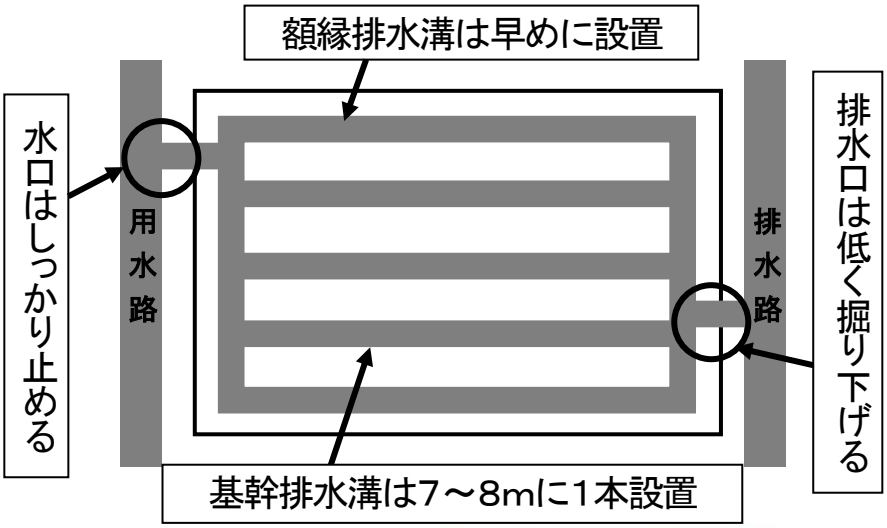
令　和　３　年　９　月
魚　　津　　市
魚津市農業技術会議

大麦の発芽・苗立ちを確保するには、排水対策の徹底が大切です。稲刈り後、早めに額縁排水溝を設置し、播種前の土壌の乾きを促進するとともに、石灰質資材の施用、適期・適正な播種作業により苗立ちを確保しましょう。

１．排水対策の徹底

① 作業機が入れるように、コンバインの旋回でできた停滞水の排水を促しましょう。
額縁排水溝と長辺方向に基幹排水溝を設置しましょう。

② 溝は連結し途中で水が停滞しないように手直しを行い、排水口を深く掘り下げましょう。



額縁排水溝の設置

基幹排水溝の設置

排水口と確実に連結

２．土壌ｐＨ6.0～6.5の確保！

大麦の生育に適する**ｐＨ6.０～6.５**を確保するため、石灰質資材を確実に施用しましょう。

〇石灰質資材の施用の目安

資材名	施用量(Kg/10a)
苦土石灰	100kg

※作付前の土壌pHが低い場合(5.5未満)は、施用量を増やしましょう。

３．種子はしっかり消毒

雲形病等の発生を防ぐため、次のいずれかの方法により、種子消毒を行いましょう。

防除法	処理方法及び注意事項
薬剤粉衣	ベンレートＴ水和剤20を種子重量の０．５%粉衣 （種子10kgに水200cc、薬剤50gを入れて混和する。）
循環式催芽器	45℃の温湯に2．5時間浸漬する。（時間厳守）

※「循環式催芽器」で温湯消毒した種子は、過湿による発芽障害を防ぐため、消毒後は、水をよく切って乾かす。

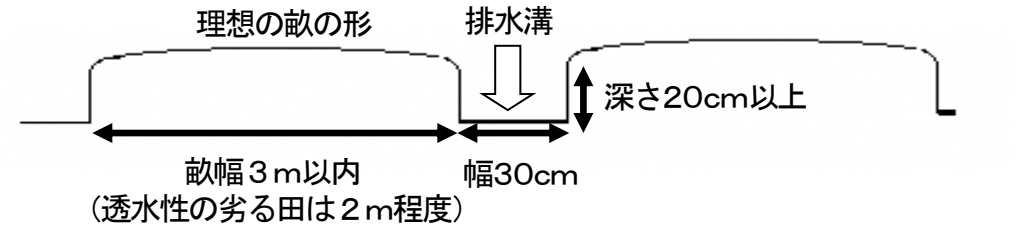
４．播種は、できるだけほ場が乾いた状態で！

良好な出芽・苗立ちを確保するため、**ほ場が乾いた状態で**、施肥・耕起・播種・作溝の一連の作業は、１日で実施しましょう。

（1）耕起・畝立て

①耕起作業は、トラクターの速度を落として土を細かくし、砕土率６０%以上を確保しましょう。
また、根がしっかり張るよう、作土１５ｃｍ以上を確保しましょう。

②畝幅は３ｍ以内とし、**しっかりした溝（幅３０ｃｍ、深さ２０ｃｍ以上）を設置して**、排水口に確実に連結しましょう。



（2）適正播種量の厳守、適正な播種深度の確保

①適正な苗立数に誘導するため、播種時期・播種方法に応じた播種量としましょう。

②ドリル播きの場合、播種深度が深いと初期生育が遅れ、穂数不足となります。
深さ３ｃｍ程度を目安に播種しましょう。

播種時期	目標苗立数（本/㎡）	播種量（kg/10a）	
		表面散播	ドリル播
9月6半旬	140	6．5	6．0
10月上旬	150	7．0	6．5
10月中旬	200	9．0	8．5

（3）適正な基肥の施用

基肥の過剰施用は、倒伏や細麦化など品質低下の原因となります。下記を目安に、地力に応じて適切な施肥量となるようにしましょう。

区分	肥料名	施用量（kg／10a）
ドリル播	Ｊコート大麦48号	45kg

Ｊコート肥料は年内茎数が増加しやすいことから、適正な播種量や施肥量を遵守し、過剰生育にならないよう注意しましょう。

（4）除草剤の散布（ドリル播きのみ）

播種後の除草剤散布により初期生育を確保しましょう。
※除草剤を使用される場合は、指導員にご相談下さい。